

増加する日系自動車部品メーカーの メキシコへの進出機会



**「メキシコにおける自動車
生産台数は2013年に293万
台に達し、2017年には4百
万台に達する可能性がある」**

メキシコは、北米輸出向け生産拠点としてだけでなく、低コストと自由貿易協定を軸として全世界に対する戦略拠点として活用する企業が増えています。

自動車部品メーカーのメキシコへの進出ニーズをテーマとして取り上げ、進出にご関心を持たれる企業様にとって有益な情報を今後数回に分けて発信致します。

サードフォース株式会社は、市場機会を迅速且つ継続的に捉え、自動車部品その他製造業、日本からの製品輸出や海外拠点を設立する進出支援に関する実務支援を提供しております。

メキシコの自動車生産台数と輸出台数は、Mexican Auto Industry Association(AMIA)によると4年連続で記録を更新し、2013年に2.93百万台（前年比1.7%増）に達しています。

自動車メーカーが米国市場の回復を踏まえ製造能力を増強した背景にあります。メキシコからの輸出は2.9%増加して2.42百万台となり、世界第4位の輸出国となり、約7割が米国向けです。メキシコ国内の新車販売台数は同年に7.7%増加し、1.06百万台に達しています。国内製・輸入が約半々です。

低コスト、地理的な近接、北米に加えて中南米や欧州等世界45カ国と自由貿易協定を有する点などから、ビッグ3はメキシコを重視していると見られます。欧州勢も、フォルクスワーゲンに加えて傘下のアウディも同国における初の工場を建設しています。

日系大手自動車メーカーの生産体制増強が進行しています。日産自動車が同国トップグループの生産体制を構築し、2014年1月にマツダ株式会社が同国グアナファト州で量産を開始しています。ホンダは2014年2月に第二の拠点を設立しています。

現地サプライチェーン構築・補完に向けた、国内自動車部品メーカーの進出拡大に対する期待は今後も大きくあります。タイヤインドネシア等の東南アジアへの進出ラッシュが続いていますが、次なる戦略拠点として位置付けと捉えることができます。

第1回：メキシコの自動車部品産業の発展

自動車製造サプライチェーンを構成するメキシコにおける自動車部品産業の概要について発信します。自動車部品の部門別取引状況、輸入と輸出の状況、自動車部品の参入状況、雇用者数、地域別の拠点一覧を俯瞰します。

第2回：増加する日系自動車部品メーカーの進出ニーズ

上記自動車メーカーの進出に伴い多くの部品メーカーが参入していますが、必ずしも業界としての充足度・成熟度は十分とは言えない状況と思われます。現地調達可能な製品群、メキシコ国内から見て不足している部品類、現地での開発が必要とされている分野について整理した上で、これからの進出機会についてお伝えします。

第3回：進出に向けた懸念点と対策

進出機会があってもメキシコは日本から遠く、現地の治安に対する不安、現地における管理・経営体制をどう構築するか等、一般に様々な考慮点があります。これらに対する事実関係と分析、今後進出する企業様に対するインプリケーションをお伝えします。

サードフォース株式会社による海外展開の実務支援

弊社は、海外展開における実務支援をご提供しております。市場調査、海外営業の代行、海外拠点の設立業務の受託、提携・出資先の発掘や交渉、輸出における貿易支援等、コンサルティングや助言に加えて実務を担う役割を担っております。

中南米地域に関しては、現地に在住する海外調査・営業・実務支援の経験が豊富な総合商社出身の日本人メンバー、及び南米地域での自動車業界での事業経験及び現地での事業会社経営の経験を有する総合商社出身の日本人シニアメンバーが、現地・日本の両面で、経験則・実務面の双方で日本の企業様の海外展開の実務を強力に支援致します。

- ①市場・企業調査、②営業代行、③提携アライアンス支援、④シェルターサービスの選定と管理、⑤現地拠点設立後の運営支援など、幅広い実務支援をご提供致します。

弊社ホームページ: <https://sites.google.com/a/third-force.com/home/>

第1回：メキシコの自動車部品産業の発展	4
1. メキシコにおける自動車部品生産は発展途上で、更なる進出余地が見込まれる	4
2. 自動車部品輸出入	5
3. 自動車部品産業の雇用	7
4. 自動車部品外国企業	8
5. 自動車部品企業の場所	9
6. 生産コスト	9
7. 現地調達状況	10
第2回：高まる日系自動車部品メーカーの進出ニーズ	12
8. 直接外国投資	12
9. 2011年に投資プロジェクトを発表した主な外国自動車部品企業の例	13
10. メキシコへの投資のメリット・メキシコにおける自動車部品のニーズ	14
第3回：進出に向けた懸念点と対策	17
11. 邦人の犯罪被害数	17
12. メキシコ主要都市に在留する日本人と犯罪被害率の推定	19
13. 主な協会や団体	20
14. 法的枠組み	21
15. 弊社によるご支援	22
①市場・企業調査	23
②営業代行	23
③提携アライアンス支援	23
④シェルターサービスの選定と管理	24
⑤現地拠点設立後の運営支援	24

第1回：メキシコの自動車部品産業の発展

自動車製造サプライチェーンを構成するメキシコにおける自動車部品産業の概要について発信します。自動車部品の部門別取引状況、輸入と輸出の状況、自動車部品の参入状況、雇用者数、地域別の拠点一覧を俯瞰します。データの出所：PROMEXICO 自動車部品産業レポート2012年版¹

2011年のメキシコ自動車部品産業の主な指標

生産.....	US\$67,989百万
消費.....	US\$54,734百万
外国直接投資（2006-2011）...	US\$7,648百万
雇用.....	602,816人
輸出.....	US\$45,587百万
輸入.....	US\$32,332百万



1. メキシコにおける自動車部品生産は発展途上で、更なる進出余地が見込まれる

2011年のメキシコの自動車生産台数は、対2010年比13.1%増、過去最大の250万台で、2015年には300万台に達する見込みです。一方2011年の自動車部品の生産は680億米ドル、消費は547億米ドルで、内訳は以下の通りとなっています。

セグメント	百万ドル	%
電気部品	14,933	22%
シート、カーペット	7,015	10%
エンジン部品	6,565	10%
トランスミッション、クラッチ及びそのパーツ	5,556	8%
アクセサリー	4,347	6%
ガソリンエンジン	3,723	5%
サスペンション、ステアリング及びそのパーツ	2,689	4%
ディーゼルエンジン	2,567	4%
プレス加工	2,489	4%
ブレーキ及びそのパーツ	2,212	3%

¹ http://mim.promexico.gob.mx/work/sites/mim/resources/LocalContent/69/2/Diagnostico_Autopartes2011.pdf

セグメント	百万ドル	%
タイヤ	1,397	2%
車体	1,170	2%
オイル、潤滑油	1,153	2%
自動車用皮革製品	786	1%
ガラス、フロントガラス	432	1%
冷却	311	0%
その他	10,644	16%

2. 自動車部品輸出入

2011年の自動車部品輸出

輸出先の統計では、米国向けが89%と圧倒的に大きく、カナダとブラジルを含む北・中・南米全体が94%を占めるに至っています。北米向け輸出の戦略拠点としての位置付けが理解できます。

輸出相手国	輸出金額 百万米ドル	%
米国	40,728	89%
カナダ	1,823	4%
ブラジル	406	1%
ドイツ	349	1%
英国	281	1%
日本	235	1%
中国	162	0%
オーストラリア	141	0%
コロンビア	128	0%
アルゼンチン	113	0%
その他	1,221	3%
合計	45,587	100%

2011年の自動車部品輸入

輸入元も米国が57%を占めていますが、次いで中国（10%）と日本（7%）、ドイツ（5%）が続いています。米国自動車メーカー向けの部品供給が多いと考えられますが、今後日系自動車メーカーの生産増強に伴い日系サプライチェーンからの供給余地が増加するものと期待されます。

輸入相手国	輸入金額（百万米ドル）	%
米国	18,399	57%
中国	3,153	10%
日本	2,423	7%
ドイツ	1,533	5%
カナダ	1,433	4%
韓国	1,131	3%
ブラジル	736	2%
台湾	467	1%
イタリア	305	1%
インド	283	1%
その他	2,469	8%
合計	32,332	100%

直近の自動車部品の輸出入額 2014年1月～8月分（HSコード8708、出所：通関統計）

小分類は多岐にわたり、製品種別の分析においては差異が発生する可能性があります。ブラジルとの比較における傾向として、以下の数値となります。

メキシコの輸入合計：US\$15,338百万

ブラジルの輸入合計：US\$4,356百万

メキシコの輸出合計：US\$14,665百万

ブラジルの輸出合計：US\$1,514百万

メキシコの輸入はブラジルの約3.5倍。

メキシコは輸入と輸出がほぼ同じだが、ブラジルは輸出が少ない。

メキシコの輸入相手国：64%が米国からで、その他日本8%、中国6%、ドイツ5%。

ブラジルの輸入相手国：韓国12%、ドイツ11%、アルゼンチン10%、日本8%と比較的バランスが良い。ブラジルにおいては大幅な輸入超過の状況にも関わらずメキシコでは輸出額と輸入額がほぼ拮抗しています。メキシコが内国向け生産拠点としての位置付けであることに加えて、輸出拠点としての役割を果たしていると言えます。一方、メキシコ国内の新車販売台数は先述の通り2013年に100万台を超過し、消費市場としての存在感も高まっています。

直近のねじ類の輸出入額 2014年1月～6月分（HSコード7318、出所：通関統計）

一例として、ねじ類の輸出入額の統計を調査します。ボルト、ナット、スクリュー等小分類で分析すると違った結果が出る可能性があります、以下の数値となります。

メキシコの輸入合計：US\$1,225百万

ブラジルの輸入合計：US\$467百万

メキシコの輸出合計：US\$80百万

ブラジルの輸出合計：US\$60百万

両国共に大幅な輸入超過ですが、メキシコの輸入はブラジルの約2.5倍です。大きく輸入に頼っていると言えると同時に、現地生産を進めることにより需要を取り込むニーズがあることを示唆しています。一方でブラジルでは、国内調達が進んでいる可能性もあります。

メキシコの輸入相手国：

半分以上の53%が米国からで、その他中国と台湾が約12%、日本が7%と偏っています。地域的な産業発展の観点では、例えばタイ等の東南アジアに進出した日本企業が、低コストを武器にメキシコに輸出を目指すといった海外進出の横展開の余地も想定されます。

ブラジルの輸入相手国：

比較的バランスがよく、米国21%、中国17%、ドイツ12%、日本10%となっています。

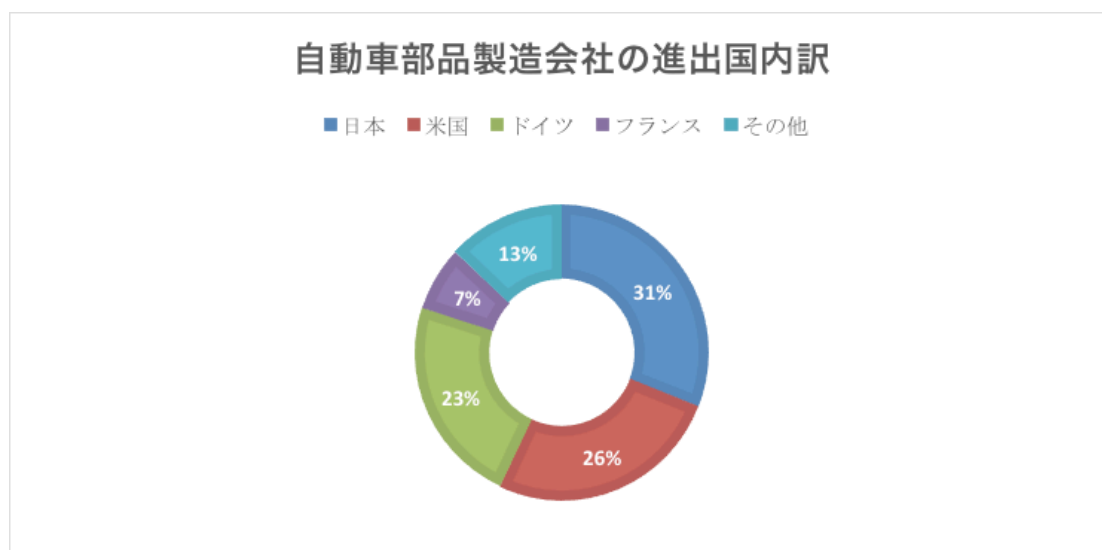
3. 自動車部品産業の雇用

2010年の輸送機器産業の平均時給は、US\$2.7と、日本国内はもとより東南アジア主要国との比較においても比較的低下水準にあります。その後産業の発展を通じて賃金は増加傾向にありますが、他国との比較における割安感は引き続きあるものと考えられます。

セグメント別雇用者数は以下の通りです。全体の約60万人のうち、電気電子部品セグメントが約21万6千人と、約1/3を占めています。先述の自動車生産金額においても電気部品が最大シェアの14,933百万ドルを占めており、雇用人数との相関が見られます。

セグメント	雇用人数
電気電子部品	216,153
シート、カーペット	74,629
ガソリンエンジン及びそのパーツ	41,589
プラスチック部品	32,076
トランスミッション部品	25,352
金属プレス部品	22,762
ステアリング及びサスペンション部品	17,736
ブレーキ部品	16,888
車体	16,220
ガラス	8,629
タイヤ	6,323
バッテリー	6,026
オイル、潤滑油	4,793
その他	110,640
合計	602,816

4. 自動車部品外国企業



2010年のメキシコ自動車部品連盟のデータでは、全国の自動車部品製造会社は1,100社で、世界のトップ100の企業のうち84社がメキシコに進出しております。国別に見ると、日本が最大(31%)の割合を占めています。

5. 自動車部品企業の場所

北東部 (チワワ州、ヌエボレオン州、コアウイラ州、タマウリパス州) 合計198工場
エアコン、プラスチック部品、電気部品、エンジンパーツ関係が集中。

北西部 (北バハカリフォルニア州、南バハカリフォルニア州、シナロア州、ドゥランゴ州) 合計70工場
エアコン、内部コンポーネント、アクセサリ、電気部品関係が集中。

南東部 (トラスカラ州、プエブラ州、メキシコ州、モレロス州、イダルゴ州、メキシコシティ連邦州) 合計101工場
シート、エアコン、油圧、ボトルジャッキ、内装部品、エンジン部品、電気部品、プレス加工、サスペンション関係が集中。

中央部 (ハリスコ州、グアナファト州、ケタロ州、アグアスカリエンテス州、サンルイスポトシ州) 合計142工場
プレス加工、電気部品、ブレーキ部品、皮革製品、エンジン及びトランスミッション部品関係が集中。



6. 生産コスト

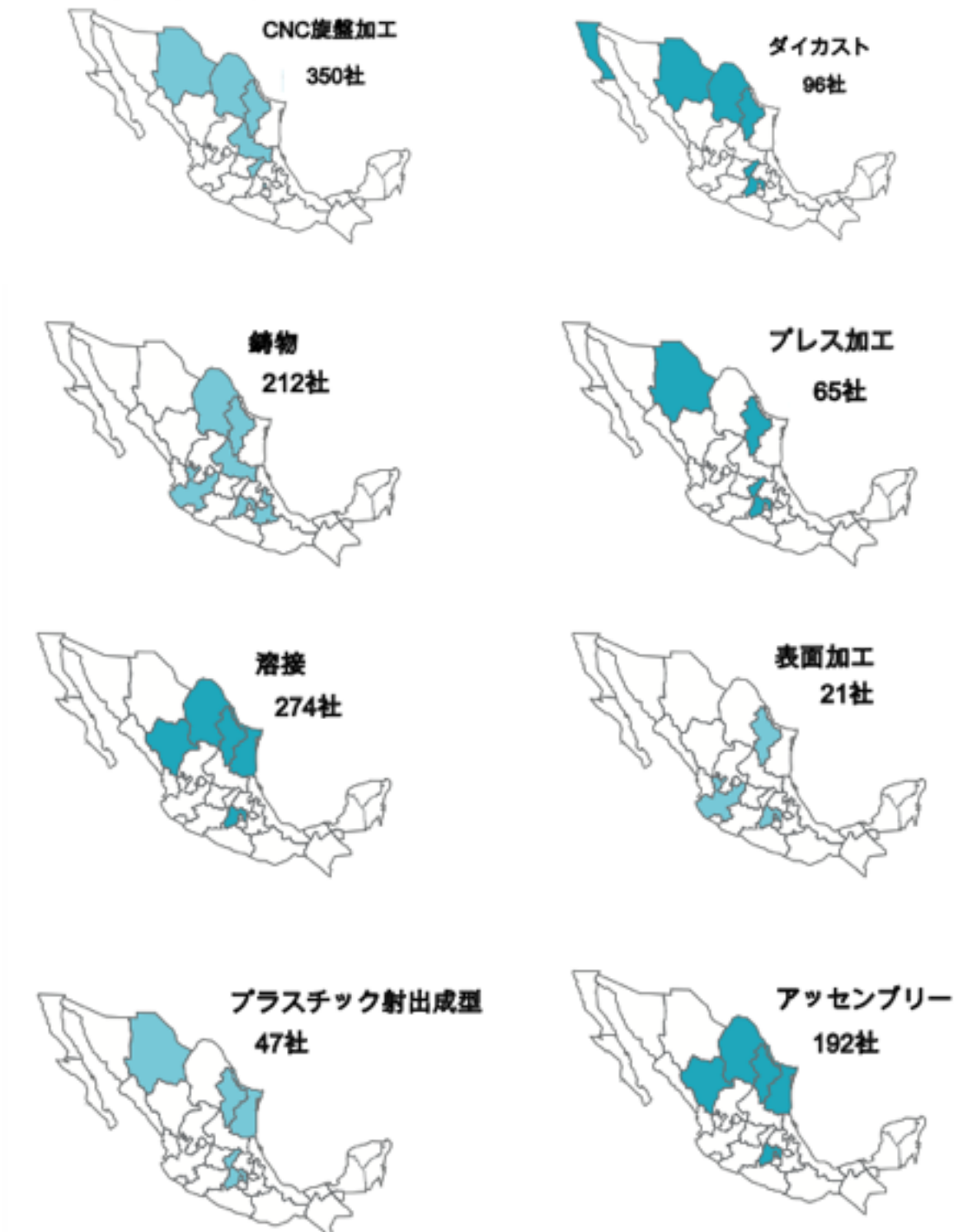
KPMGが実施した調査によると、メキシコは以下の国々と比べて、生産コストが以下の比率で割安とされています。

- 比較対象：カナダ、オランダ、フランス、イタリア、英国、オーストラリア、米国、ドイツ、日本
- 自動車部品製造：11.2%

- 精密部品製造：9.6%
- プラスチック製造：15.9%
- 金属コンポーネント製造：16%

7. 現地調達状況

メキシコで現地調達可能な製品は、以下の通りです。



第2回：高まる日系自動車部品メーカーの進出ニーズ

上記自動車メーカーの進出に伴い多くの部品メーカーが参入していますが、必ずしも業界としての充足度・成熟度は十分とは言えない状況と思われます。現地調達可能な製品群、メキシコ国内から見て不足している部品類、現地での開発が必要とされている分野について整理した上で、これからの進出機会についてお伝えします。データの出所：PROMEXICO 自動車部品産業レポート2012年版²

8. 直接外国投資

セグメント別外国投資の割合は、以下の通りです。

セグメント	百万ドル	%
オイル、油脂	163	2%
プラスチック部品	17	0%
タイヤ	385	5%
ガラス	104	1%
鉄鋼鋳型	205	3%
内燃エンジン、タービン	392	5%
バッテリー	7	0%
車体	5	0%
ガソリンエンジン及びそのパーツ	0	0%
電子電気機器	783	10%
ステアリング及びサスペンション部品	66	1%
ブレーキ部品	463	6%
トランスミッション部品	190	2%
シート	3	0%
プレス加工金属部品	1	0%
その他	4,865	64%
合計	7,648	100%

² http://mim.promexico.gob.mx/work/sites/mim/resources/LocalContent/69/2/Diagnostico_Autopartes2011.pdf

9. 2011年に投資プロジェクトを発表した主な外国自動車部品企業の例

- Robert Bosch
- Magna International
- Meritor (ArvinMeritor)
- Jatco Ltd
- Mahle
- Hella KGaA Hueck & Co
- Nippon Kayaku
- ZF Friedrichshafen
- Haldex
- Donaldson

その他の主な外国投資

セグメント	百万ドル
矢崎	ドゥランゴ州のTesla、Toyota、Honda向けのダッシュボード製造工場拡張。2700万ペソ投資、500人直接雇用。
デンソー	グアナファト州のエアコン製造工場新設。5700万米ドル投資、400人直接雇用。
Novem	ケレタロ州のBMW向け木材及びアルミニウムのインテリア素材製造工場新設。2500万米ドル投資、500人直接雇用。
丸一鋼管	アグアスカリエンテス州の自動車用鋼管製造子会社設立。1000万米ドル投資。日産その他日本製自動車向け鋼管を、年間12000トン生産。
Donaldson	アグアスカリエンテス州の新工場開設。2500万米ドル投資、260人雇用。
Faurecia	プエブラ州の内部システム製造工場新設。3.3億ペソ投資、150人雇用。
Hella	グアナファト州にヘッドライト製造工場新設。1億米ドル投資

10. メキシコへの投資のメリット・メキシコにおける自動車部品のニーズ

メキシコへの投資のメリットとして、メキシコはNAFTA加盟国である為、NAFTA市場にアクセス出来る点、また国内の19社の自動車製造企業が年間2500万台の自動車を製造しており、大きな需要がある点が挙げられます。

輸入に頼っており、国内で不足しているコンポーネントとしては、以下が挙げられます。

- I. トランスミッション
- II. ガソリンエンジン
- III. 車体
- IV. 安全システム
- V. インジェクター
- VI. センサー
- VII. ダッシュボード
- VIII. ポンプ

上記の製品を生産する企業へのサポートとして、メキシコ国内での生産の開発が必要な製品群として、以下が挙げられています。

1. 熱間鍛造、冷間鍛造部品
2. 押出成形ポリマー、メタルインサート
3. フロック加工
4. 450トン以上のアルミダイカスト
5. 高強度鋼
6. ステンレススチール
7. 鋳鋼
8. ステンレス鋳鋼
9. 精密プレス
10. 深絞りプレス加工
11. 外部プラスチッククロムめっき (External plastic chroming)
12. 大量焼結 (High volume sintered)
13. 車体金型
14. シーケンシャルダイ (Sequential die)
15. プラスチックモールド製造
16. ダイカストモールド製造
17. ファイバーグラス部品
18. ブロー成型 (塗装有り・無し)
19. センサーや電気コンポーネントの組立又は製造

広範な進出余地

上記のように、メキシコの自動車部品産業における現地の視点では、多くの製品群において、国内生産が必要とされています。要因としては、自動車メーカーの進出や生産増強が急速であることに加えて、地場における起業は比較的少なく、輸入に頼りがちな文化であることも挙げられています。

メキシコにおいては自動車メーカーの進出を起点としてティア1の多くも進出していますが、日系企業に限らず、欧米の自動車部品産業においても、ティア2とティア3の進出ニーズが高まっていると言われています。東南アジアにおける、タイやインドネシア等への進出ラッシュと同様に、進出を通じた現地での部品生産を実現することで既存顧客との関係が維持・拡大され、新たな販路開拓の可能性も大きく広がるものと考えられます。

現地における生産拠点の確立にはまとまった経営資源を投じる必要があり、率先して意思決定を行い実行に移せる企業が他社に先行して受注を獲得できるという構図は他国と同様と考えられます。

既にメキシコでの生産が進んでおり、メキシコからの輸出が推奨される製品は、以下の製品群が挙げられています。これらは、自動車工業が盛んなブラジルやアルゼンチン向け、また米国のアフターマーケット向けに、品質が良い低コスト製品として提供が可能とされています。

- A. オイルパン
- B. ロッカーアーム (Rocker arm)
- C. タンクキャップ
- D. ブッシング
- E. アクセサリー
- F. クランプ
- G. スパークプラグ
- H. ベアリング
- I. ジョイント
- J. エアフィルター
- K. ワッシャー
- L. ピストン
- M. ガソリタンク
- N. トーションバー
- O. ボルト
- P. チューブ (ホース)
- Q. フォーク

R. ディスクブレーキ・ドラムブレーキ

北米市場以外への販売を行う戦略拠点としてのメキシコ

メキシコで生産されるプレス加工品、プラスチック射出成型、成形品などティア2製品は、国際ブランドの規格（国際自動車メーカーの品質基準）を満たしている為、海外市場で競争力のあるものとされています。

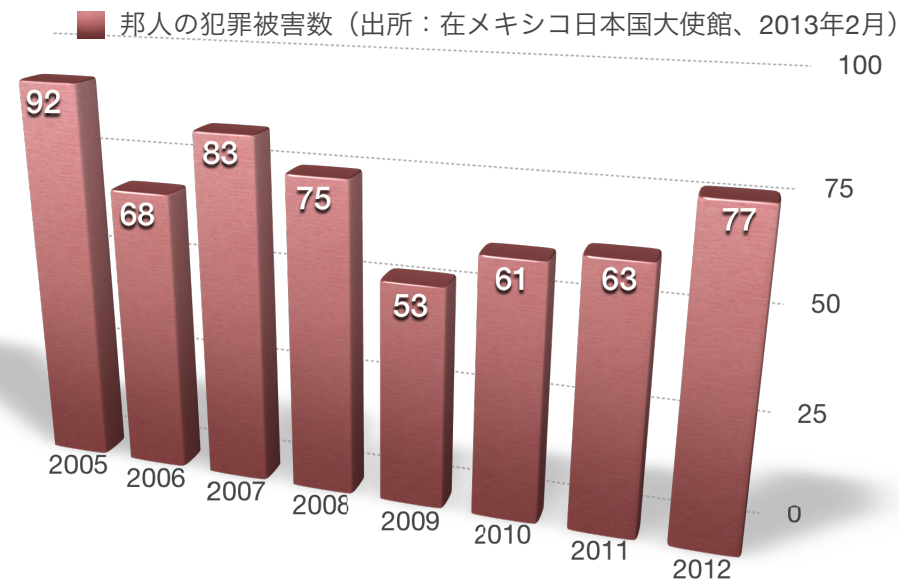
メキシコが有する世界45カ国との自由貿易協定を通じて、北米以外の市場に販売を行う戦略拠点として位置付け、中南米、欧州向けの販路開拓にも役立てることが可能と思われます。

第3回：進出に向けた懸念点と対策

進出機会があってもメキシコは日本から遠く、現地の治安に対する不安、現地における管理・経営体制をどう構築するか等、一般に様々な考慮点があります。これらに対する事実関係と分析をお伝えします。

11. 邦人の犯罪被害数

邦人が被害となる凶悪犯罪（出所：在メキシコ日本国大使館）



時期	被害の概要
2003年1月	邦人駐在員が交通上のトラブルから、けん銃で射殺された事件
2003年6月	邦人留学生在がペセロ（バス）に乗車した後にバスジャックされた事件（同日解放）
2004年10月	邦人店主が誘拐された事件（同日解放）
2005年7月	邦人女性が自宅にて首を絞められ殺害された事件
2005年11月	帰宅途中の留学生在が6人組グループに襲われ、けん銃を発砲され（至近距離を通過するも負傷なし）、多額現金を強奪された事件
2006年7月	邦人駐在員が帰宅した際に誘拐された事件（誘拐途中で脱出）
2008年4月	出勤した邦人駐在員が駐車場にて射殺された事件
2010年5月	邦人旅行者がひき逃げされ死亡した事件
2011年1月	在留邦人が強盗に襲われ、後日死亡した事件
2011年2月	邦人出張者が車両を運転中に銃撃され負傷した事件
2012年6月	在留邦人が強盗に襲われ負傷し数日間入院した事件

メキシコにおける一般犯罪（薬物関係を除く）

- メキシコ国内の一年間の総犯罪被害届出件数は、治安機関発表によれば、約169万件（2011年統計）とされ、犯罪発生認知件数で見た場合、統計上は日本（2011年：約148万件）と同程度の数値となっています。しかし、その一方で、当地では犯罪被害の届出率が低い（一説によると被害届提出率10～15%）ことを勘案すれば、公式統計よりも、犯罪発生はかなり高い数値で推移していると思われ、実質的には犯罪発生率は日本の数倍であろうと考えられます。（出所：在メキシコ日本国大使館）

2012年の州別の犯罪発生状況（出所：在メキシコ日本国大使館）

都市・州	概要
メキシコ市（被害件数31件、前年比5件増加）	2012年のメキシコ市全体の犯罪被害通報件数は197,596件(前年比2.9%減少)。殺人779件(前年同)、誘拐65件(前年比18%増加)、ATMや銀行利用後の強窃盗962件(前年比30%減少)、タクシーの乗客に対する強窃盗640件(前年比38%減少)と、メキシコ市で特徴的であったATMや銀行利用後の強窃盗事件は大幅に減少したが全体の犯罪被害通報は微減。 邦人に対する強盗等の凶悪事件は8件とメキシコ全国の凶悪事件11件のうち73%を占めた。被害の種類では、窃盗(置き引き, ひったくり), 強盗の被害が目立っている。9月に信号待ち・渋滞停車中の車両に対するけん銃を使用した強盗が2件。
グアナフアト州（15件）	前年比10件増と大幅増加、窃盗(車上狙い)12件、窃盗(空き巣)1件、窃盗(ひったくり)1件及び窃盗(客室狙い)1件。
ケレタロ州（5件）	強盗致傷(銀行へ行く途中に強盗に遭い大怪我を負った)1件及び窃盗(車上狙い)4件。
ハリスコ州（5件）	窃盗(車上狙い)2件、窃盗(置き引き)2件及び窃盗(空き巣)1件。
キンタナ・ロー州（5件）	窃盗(置き引き)3件、窃盗(空き巣)1件及び窃盗(客室狙い)1件。
ヌエボ・レオン州（4件）	強盗1件、窃盗(空き巣)1件、窃盗(車上狙い)1件及び窃盗(置き引き)1件。
バハ・カルフォルニア州（3件）	窃盗(車上狙い)1件、窃盗(ひったくり)1件及び窃盗(その他)1件。
メキシコ州（2件）	窃盗(車上狙い)1件及び窃盗(空き巣)1件。
その他	バハ・カルフォルニア州スル、ゲレロ州、サカテカス州、アグアスカリエンテス州、プエブラ州、モレーロ州、オアハカ州で各1件。

12. メキシコ主要都市に在留する日本人と犯罪被害率の推定

在留邦人数：8,095名（2012年10月現在）

日系人数：約二万人

（出所：外務省）

主要都市における推定在留邦人数と邦人被害

州名	推定 在留邦人数 ⁽¹⁾ (A)	(参考)推定 日系企業 ⁽¹⁾	邦人被害 発生数 ⁽²⁾ (B)	在留邦人が 被害者の割合 ⁽³⁾ (C)	在留邦人当たり 被害率 ^(%) ⁽⁴⁾ (D)
メキシコシティ (Mexico City)	3,100	170	31	63.1%	0.6%
グアナファト州 (Guanajuato)	900	90	15	63.1%	1.1%
アグアスカリエンテス (Aguascalientes)	800	50	1	63.1%	0.1%
モンテレイ (Monterrey/Nuevo Leon州)	600	80	4	63.1%	0.4%
ケレタロ(Qeretaro)	300	30	5	63.1%	1.1%
グアダラハラ (Guadalajara/ハリスコ州)	200	40	5	63.1%	1.6%
サンルイスポトシ州 サンルイスポトシ市	100	40	0	63.1%	0.0%
合計	6,000	500	61	63.1%	0.6%

注記：

- (1) 推定在留邦人数(A)・推定日系企業は各種資料からの推定。
- (2) 邦人被害発生数(B)は在メキシコ日本国大使館が公表する2012年のデータ。
- (3) 在留邦人が被害者の割合(C)は、上記2012年の邦人被害数のうち、旅行者、出張者、留学生を除く在留邦人が被害を受けた割合（全国平均値）。
- (4) 在留邦人当たり被害率^(%)(D)は、(邦人被害発生数(B) x 在留邦人が被害者の割合(C))を、推定在留邦人数(A)で除して得た割合。1%で、100人に一人が被害を受けたことになる。
- (5) 上記の推計において、推定邦人数の測定時期と邦人被害発生の時期（2012年）は一致しない可能性がある。また、在留邦人が被害者の割合は全国平均であり、州毎の偏りは考慮されていない。

上記の分析は見方により意味合いが異なり、国際比較を考慮しても上記被害率が際立って高いとは言えないと考えることも可能であり、先述の通り凶悪事件は発生している事も事実で、被害を防ぐべく十分な対策を取った上でも被害が発生していると考えられる事も可能です。

自動車メーカー及び自動車部品メーカーが多く進出する地域においては、日系企業が集積する地域も多く、上記各都市には、米国系インター校及び/又は日本人学校があり、駐在員が家族で在留するケースも多いようです。相互扶助の関係で、被害の防止に努めておられるものと推測されます。

13. 主な協会や団体

協会

協会

自動車部品工業連盟 (INA)

タイヤ流通連盟 (ANDELLAC) : Bridgestone, Continental, Good Year, Michelin, Pirelli, Tornel, Cooper tires など。

自動車工業連盟 (AMIA) : Chrysler, Ford, General Motors, Nissan, Volkswagen, BMW, Honda, Toyota, Peugeot, Renault, Suzuki, Fiat, Subaru, Mercedes Benz

バス、トラック、トレーラ生産者組合 (ANPACT) : Dina, Isuzu, Kenworth, Mercedes Benz, Scania, Volvo, Freightliner, International

技術・設計センター

General Motorsエンジニアリングセンター

日産技術開発センター

Chrysler自動車技術研究開発テストセンター

ケレタロ州研究・技術サポートセンター (CIATEQ)

戦略提携及びイノベーションネットワーク (AERIS)

自動車電子技術センター

Delphi技術センター (チワワ州のコンポーネント技術センター)

メキシコ自動車産業開発センター (CEDIAM)

ヌエボレオン州自動車産業クラスター (CLAUT)

工業技術開発センター (CIDESI)

高技術資材研究センター (CIMAV)

14. 法的枠組み

PROSEC (産業奨励プログラム)

自動車産業などグローバル化された産業の競争力維持の為に、原材料の輸入に特惠関税を与えるもので、自動車産業の場合は殆どの原材料の輸入が無税となっています。

2007年の関税品目数	現在の関税品目数	関税率 (%)
1,837	602	0
420	136	3
53	21	5
2	2	10
2,312	761	

また上記の対象とならない品目でも、特別輸入許可により個別に優遇関税の適用を認める制度 (レグラ・オクターバ) が、以下の場合に適用出来ます。

- ・ 供給ソースの多様化を図って競争力を維持する為。
- ・ 新しい投資プロジェクト立ち上げの為に必要な場合。
- ・ 国産品がないか不十分な場合。

- ドローバック：輸出する製品の製造に使用する為に輸入した資材に対して支払った税金の、払い戻し制度。
- IMMEX：輸出向け製品の製造の為に一時輸入される製品への、税金免除制度。
- 原産地規則

経済協定締結国別の、メキシコが原産地とみなされる為の条件

経済協定	自動車産業の原産地規則
NAFTA	域内調達金額が、15人乗り以下の自動車の場合は62.5%以上、16人乗り以上の自動車の場合は60%以上とする（ネットコスト方式）。
EU	全ての原材料の金額が、工場価格の40%を超えない事。
EFTA	全ての原材料の金額が、工場価格の40%を超えない事。
メルコスール	ブラジル・アルゼンチン：域内コンテンツ60%以上。 ウルグアイ：域内コンテンツ50%以上。 メキシコへの輸入の場合は、域内コンテンツ30%以上。
コロンビア	現地調達金額が35-50%。
チリ	域内調達金額格が、1取引金額方式で32%以上又は、ネットコスト方式で26%以上。
ポリビア	域内調達金額が、ネットコスト方式で40%以上。
コスタリカ・ニカラグア	域内調達金額が、ネットコスト方式で40%以上。
グアテマラ、ホンジュラス、エルサルバドル	域内調達金額が50%以上。
イスラエル	取引金額方式で40%以上、ネットコスト方式で35%以上。
ペルー	域内調達金額が35%以上。
日本	域内調達金額が65%以上。

15. 弊社によるご支援

サードフォース株式会社は、海外展開における実務支援をご提供しております。市場調査、海外営業の代行、海外拠点の設立業務の受託、提携・出資先の発掘や交渉、輸出における貿易支援等、コンサルティングや助言に加えて実務を担う役割を担っております。

中南米地域に関しては、現地に在住する海外調査・営業・実務支援の経験が豊富な総合商社出身の日本人メンバー、及び南米地域での自動車業界での事業経験及び現地での事業会社経営の経験を有する総合商社出身の日本人シニアメンバーが、現地・日本の両面で、経験則・実務面の双方で日本の企業様の海外展開の実務を強力に支援致します。

①市場・企業調査

上記の一般情報の調査に加えて、進出を企業される企業様が属する業界に関するより詳細な調査に、現地語対応を含めて対応させていただきます。

- ・ 詳細な商品分類に基づく現地における輸出入の貿易統計の調査
- ・ 日系企業に限られない、外資系自動車メーカーにおける対象商品の販売余地の調査
- ・ 政府機関、業界団体等へのアクセスによる情報収集、進出に向けた支援・優遇策の調査
- ・ 対象製品を製造する同業企業の調査

②営業代行

多くの自動車部品メーカーの進出においては、国内で取引関係のある顧客企業様と継続して取引をされる場合が多いですが、進出に伴い既存顧客以外の新規顧客の開拓が、採算上必要になる場合も想定されます。新規顧客の獲得の可能性を見極め、具体的な商談獲得に向けた、現地語対応を含めた実務支援をさせていただきます。

- ・ 潜在顧客のリストアップ
- ・ 選別した潜在顧客に対する売り込み・アポイントメント取得（初期代行）
- ・ 商談への同行とプレゼンテーション、通訳、会議のファシリテーション
- ・ 見込み顧客とのコミュニケーションの代行
- ・ 条件・契約交渉の支援・代行
- ・ 関係構築後のコミュニケーションの代行

③提携アライアンス支援

事業上の必要に応じて、現地企業との提携が有効な場合も想定されます。事業目的に合う戦略的パートナーの調査から打診、交渉、関係構築まで一連の業務に対応致します。

- ・ 提携・アライアンス先候補のリストアップ
- ・ 初期的な関心の打診
- ・ 面談のセットアップと同行、プレゼンテーション、翻訳、会議のファシリテーション
- ・ 提携・契約条件の交渉
- ・ 関係構築後のコミュニケーションの代行

④シェルターサービスの選定と管理

メキシコ企業が外国企業に代わって法人となり、会社設立・運営手続きを代行出来るシステムで、以下のサービスが提供されます。

- ・ 人事管理
- ・ ライセンスや許可の取得
- ・ 財務・会計処理
- ・ 通関手続き
- ・ 操業・メンテナンスサービス
- ・ ロジスティックサービス

必要に応じて、弊社は現地で有力、評判の良いシェルターサービス業者の調査・比較・選定を行い、選定後のモニタリングや評価、現地ご対応を含むコミュニケーション支援をご提供致します。

⑤現地拠点設立後の運営支援

現地での操業を開始した後も、日常の業務及び各種事業環境の変化に応じて様々な課題・問題が発生する可能性があります。地理的に遠方であることから、日本からの出張ベースでの対応には限界があります。現地での経験則に基づくアドバイス、経営支援、実務対応をご提供致します。

- ・ 拠点運営の定期的なモニタリング（実地確認、会議への出席等）
- ・ 事業運営のモニタリングと経営指導
- ・ 問題・課題発生時のトラブルシューティング対応

海外展開を進める上では、入念な調査と検討を重ねる必要があります。十分な準備期間も必要となります。初期的なご相談は無料に対応させて頂きます。お気軽にお問い合わせ頂けますようお願い申し上げます。

お問合せ先：

電子メール: support@third-force.com

電話: 03-6411-6065

弊社ホームページ: <https://sites.google.com/a/third-force.com/home/>

以上